2016年7月号「vol.73」◎編集：新井絹世　横浜市磯子区丸山2-24-3　◎電話：045-751-5250 ◎FAX：045-761-7451

県議会議員

あらい絹世の 磯っ子レポート

県政をもっと身近に

http://www.araikinuyo.jp

昨年度の児童虐待相談3135件 神奈川県所管の5児童相談所で

2011年度に児童虐待防止法が制定・施行されたのに続いて、昨年7月から相談の中心施設である児童相談所への短縮ダイヤル「189（いちはやく）」が設けられて1年になります。全国207カ所の児童相談所が相談に対応した数は年間6万6701件（2014年度）で同法施行前に比べると5.7倍に上っています。児童虐待への相談が急増したのは社会の変化で家族や地域の触れ合いが希薄になったこともありますが、夫婦喧嘩を子どもの目の前で行うことが心的虐待になるなど虐待の概念が以前に比べてぐんと広がったことがあるようです。とはいっても、子どもが虐待されたニュースは後を絶たず心痛むばかりです。そしてお年寄りや障がい者も含め社会的弱者が護られる社会こそ人間社会の基本だと思います。

先ごろ神奈川県が発表した「2015年度の児童虐待相談の受け付け件数」によると県が所管する県下5つの児童相談所（政令指定都市の横浜、川崎、相模原と横須賀を除く）の昨年度の相談件数は合計3135件で、前年に比べ428件増えており過去最多となっています。この内訳をみると虐待態様別では①心理的（言葉による脅し、無視、きょうだい間の差別的扱いなど）1672件②保護の怠慢ないし拒否（食事を与えないなど）③身体的（首を絞める、殴る、ける、投げ落とす、やけどを負わせるなど）652件となっています。虐待対象の年齢別では乳幼児が最も多く全体の46.2%を占め、次いで小学生33.4%となっています。また相談をどんな経路で受けたかをみると、最も多いのが警察からの通告で全体の39.4%、次が近隣知人からの17.4%、3番目が家族・親戚からの15.7%となっています。

短縮ダイヤルでの通報は1976件ありましたが、このうちつながったのは676件でこのうちの一部が児童虐待にかかわる相談として相談件数に挿入されました。また短縮ダイヤルについて今年4月から「より早くつながるように」改善が行われたとのことです。所管する厚生労働省が、従来はつながるまで平均70秒かかっていたものを30秒程度に短縮したものです。

県所管に横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市の所管を加えた神奈川県内全体の児童相談所で扱った昨年度の相談件数は合計1万489件。県所管以外では横浜市3892件、川崎市1920件、相模原市970件、横須賀市572件となっています。

コレが言いたい！

短縮ダイヤル「189」により、児童虐待相談件数は増加しました。虐待が増えた事に加え社会的意識が高まったとも考えられます。しかし、短縮ダイヤルは長すぎる音声案内により利用者が途中で切るなど多数の問題点を指摘され、システム改善がなされましたが、虐待の通報や利用促進を進めるためには、更なる改善が必要と考えます。

今月のひと言

児童虐待相談全国短縮ダイヤル「189」が昨年7月1日に設置され一年となります。虐待は特別な事ではなく、身近に起こり得る事です。おかしいと思ったら迷わず連絡して下さい。そして、子育てにお悩みの方も「189」にお電話下さい。

磁子 あれ？これ？

浜小学校

浜小学校は、昭和19（1944）年4月1日に横浜市立磯子国民学校（現磯子小学校）から浜国民学校として分かれ、現在の磯子区役所のところに開校しました。昭和22年4月1日学校制度改編により横浜市立浜小学校となりました。

同校の目の前には砂浜と根岸湾が広がり、子供たちは日本一広い「運動場」と自慢でした。夏休みともなると、臨海学校に横浜市内の他の学校の子供たちも訪れました。

また、この頃「海と山との交換会」として新潟県石打の小学校との間で交流がおこなわれ、冬は浜小の子供たちがスキー体験で石打を訪れ、夏は石打の子供たちが海水浴にやって来ました。

昭和34年～46年に根岸湾の埋め立てがおこなわれ、海岸が産業道路や工場に変わり、鉄道も開通しました。同校は、車の騒音や道路工事、駅前整備の工事などの影響で、落ち着いて勉強ができる環境ではなくなり、昭和38年11月に磯子台に移りました。一時期、宅地開発により周辺の人口が増え、児童数も増えたため汐見台分校と区役所隣に分校ができました。（汐見台分校→汐見台小、浜東分校→山王台小）

推理小説家の津村秀介（ペンネーム）と音楽家のミッキー吉野（芸名）の二人も同校の卒業生です。

参考：創立30周年記念誌・卒業生の話

活動報告

6月20日、横浜駅近くの県民センターに外国籍県民や来県外国人に多言語による情報提供・通訳支援を行う「多言語支援センターかながわ」が開設されました。神奈川県の外国人数は現在約17万4千人（磯子区内3,750人）、昨年より8,000人程増え、52人に一人が外国籍であり、本県では外国籍県民の増加や定住化が進んでいます。また、今後ラグビーワールドカップや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を迎え、様々な国から外国人観光客が訪れる事が見込まれます。「多言語支援センター」内に外国籍県民の方々が、保健医療や子育て支援など日々の生活に必要な情報について問い合わせが出来るコールセンターを設置し、また通訳が不足している言語の専門人材を当センターで育成するなど、多文化共生社会を更に進めて行きます。

6月21日、磯子区選出の県会議員・市会議員による区議団会議が開催されました。○平成28年度磯子区運営方針について/○磯子区まちづくり方針/○新杉田臨海部における緑道・緑地等の整備について　の報告がありました。磯子区まちづくり方針については、平成15年に策定され、平成29年度に改定を予定しています。平成29年1月には改定素案の意見募集が行われます。

あらい絹世 プロフィール

- ●昭和43年3月8日　横浜市磯子区生まれ
- ●横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- ●明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- ●日商岩井㈱ / ㈱メタルワン
- ●自民党かながわ政治大学12期生
- ●平成27年4月　県議会議員2期目当選
- ●県民・スポーツ常任委員会委員長
- ●社会福祉審議会委員

あらい絹世に対するご意見・ご感想・ご要望・メッセージをお寄せ下さい・・・・・・・・・・・ FAX 045-761-7451